

平成26年度決算(案) 説明資料

平成27年5月28日
明治安田生命保険相互会社

1. 平成26年度業績のポイント

- 平成26年度業績は減収・増益
- 保険料等収入は、銀行窓販チャネルにおいて、一時払終身保険の販売量を計画的に抑制したこと等により減収となるものの、営業職員チャネルにおける業績伸展等により、全体としては計画どおりの水準を達成
- 主力商品「ベストスタイル」は昨年6月に発売し、1年間で50万件の販売目標を4月末時点で前倒しで達成。これにより、第三分野新契約年換算保険料が大きく伸展
- 外貨建債券の積み増しや、内外株式の増配、円安ドル高の進行等により、利息及び配当金等収入が増加。基礎利益は5年連続増益かつ過去最高益。4年連続順ざやを達成
- 有価証券含み益の増加や内部留保の積み増し等により、ソルベンシー・マージン比率も上昇
- 個人保険・個人年金保険、団体年金保険の配当率を引き上げ。個人保険、個人年金保険の増配は2年連続
- EEV（ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー）は大幅増加

2. 保険料等収入について

○ 保険料等収入の状況

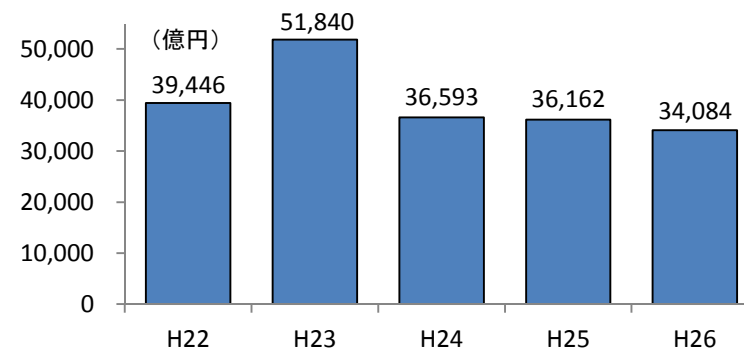
(単位：億円)

	平成26年度		平成25年度
		前年度比	
保険料等収入	34,084	△ 5.7%	36,162
うち個人保険・個人年金保険	22,173	△ 7.2%	23,891
うち営業職員チャンネル	13,217	1.7%	13,001
うち銀行窓販チャンネル	8,508	△ 18.2%	10,404
うち団体保険・団体年金保険	11,473	△ 2.8%	11,803

保険料等収入

3兆4,084億円 (前年度比5.7%減収)

- ◇ 保険料等収入は、銀行窓販チャンネルにおいて一時払終身保険の販売量を計画的に抑制したこと等により減収となるものの、営業職員チャンネルにおける業績伸展等により、全体としては計画どおりの水準を達成



主力商品『ベストスタイル』の販売状況

進化する保険
ベストスタイル

- ◇ 「ベストスタイル」は昨年6月に発売し、1年間で50万件の販売目標を4月末時点で前倒しで達成

営業職員チャンネルの保険料等収入の状況

1兆3,217億円 (前年度比1.7%増加)

- ◇ 主力商品『ベストスタイル』の販売が好調なことにより伸展

銀行窓販チャンネルの保険料等収入の状況

8,508億円 (前年度比18.2%減少)

3. 年換算保険料・保有契約高について

○ 新契約年換算保険料の状況（個人保険・個人年金保険）（単位：億円）

	平成26年度		平成25年度
		前年度比	
新契約年換算保険料	1,692	△ 5.4%	1,788
うち営業職員チャンネル	955	3.6%	922
うち銀行窓販チャンネル	707	△ 15.3%	835
うち第三分野 ^(注)	326	26.4%	258

(注) 第三分野は、医療保障給付、生前給付保障給付、保険料払込免除給付等に該当する部分を計上

○ 保有契約年換算保険料の状況（個人保険・個人年金保険）（単位：億円）

	平成26年度末		平成25年度末
		前年度末比	
保有契約年換算保険料	21,413	0.8%	21,252
うち営業職員チャンネル	15,265	0.2%	15,241
うち銀行窓販チャンネル	5,727	2.3%	5,596

○ 保有契約高の状況（団体保険・団体年金保険）（単位：億円）

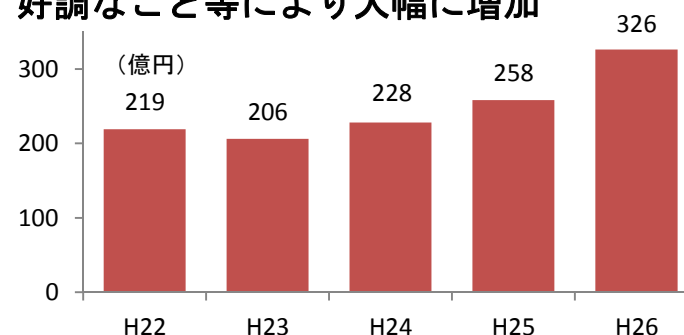
	平成26年度末		平成25年度末
		前年度末比	
団体保険	1,116,361	0.6%	1,110,059
団体年金保険	71,336	2.3%	69,705
(グループ全体)	81,409	4.1%	78,207

新契約年換算保険料

1, 692 億円 (前年度比 5.4% 減少)

◇ 営業職員チャンネルで前年度を上回る業績

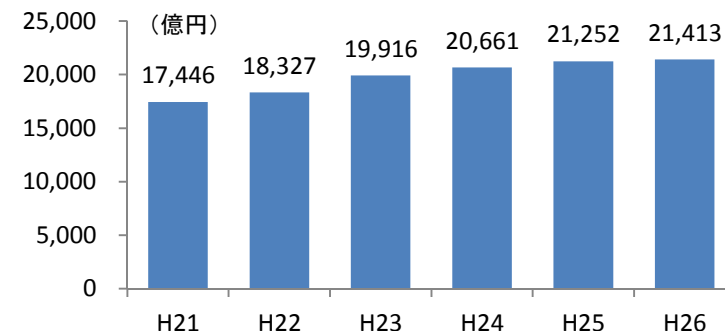
◇ 第三分野業績は『ベストスタイル』の販売が好調なこと等により大幅に増加



保有契約年換算保険料

2兆1,413 億円 (前年度末比 0.8% 増加)

◇ 6年連続で純増



4. 契約クオリティ(解約・失効、総合継続率)について

○ 解約・失効の状況 (個人保険・個人年金保険)

(単位：億円、%)

	平成26年度		前年度比(差)	平成25年度
解約・失効率	4.41	△0.16ポイント		4.57
解約・失効高	40,906	△7.7%		44,315
解約・失効年換算保険料	703	0.2%		702

クオリティ指標

解約・失効率

前年度差0.16ポイント改善

◇ 解約・失効率は引き続き改善

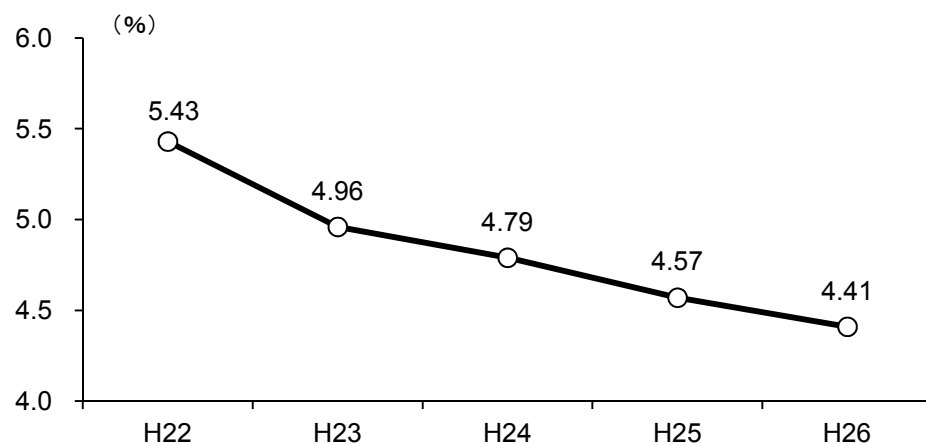
○ 総合継続率の状況 (個人保険・個人年金保険)

(単位：%)

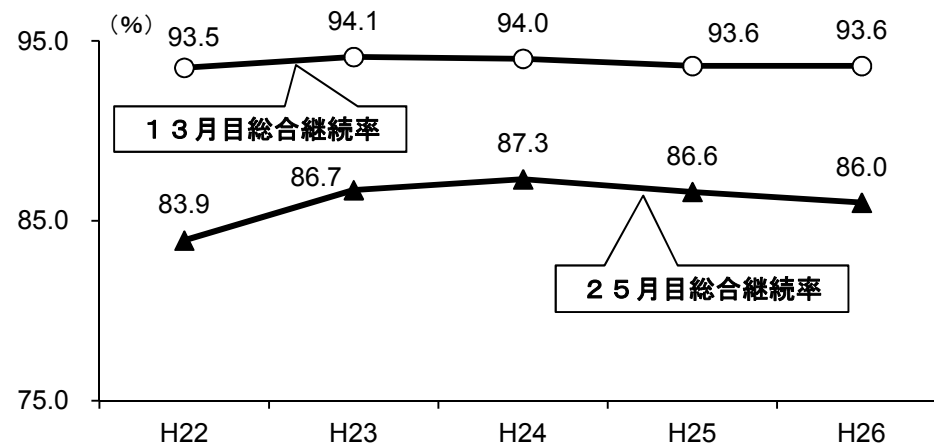
	平成26年度		前年度差	平成25年度
13月目総合継続率	93.6	0.0ポイント		93.6
25月目総合継続率	86.0	△0.6ポイント		86.6

(注) 総合継続率は、契約高ベースにて算出

(図1) 解約・失効率の推移



(図2) 総合継続率の推移



5. 資産運用収支について

○ 資産運用収支の状況

(単位：億円)

		平成26年度		平成25年度
			前年度差	
一般 勘 定	資産運用収益	9,453	192	9,260
	利息及び配当金等収入	6,981	305	6,676
	有価証券売却益	1,861	△ 343	2,205
	資産運用費用	958	△ 141	1,099
	有価証券売却損	3	△ 276	279
	有価証券評価損	3	△ 14	17
	うち株式	0	0	0
資産運用収支（一般勘定）		8,494	333	8,160
資産運用収支（特別勘定）		838	310	527
資産運用収支（全社）		9,332	644	8,688

利息及び配当金等収入

6,981億円(前年度差305億円増加)

- ◇ 市場環境に応じた外債の積み増し、株式の増配、円安ドル高の進行等により、利息及び配当金等収入が増加
- ◇ その他有価証券から責任準備金対応債券への、公社債の入れ替えペースの抑制により、有価証券売却益が減少

<参考> 平成26年度決算の運用環境

	平成26年度		平成25年度
		前年度差	
期末TOPIX	1,543.11	340.22	1,202.89
期末日経平均株価（円）	19,206.99	4,379.16	14,827.83
期末10年国債利回り（%）	0.400	△ 0.240	0.640
期末円相場（円/\$）	120.17	17.25	102.92
期末円相場（円/€）	130.32	△ 11.33	141.65

6. 基礎利益等について

○ 基礎利益等の状況

	平成26年度		平成25年度
		前年度差	
基礎利益 (A)	5,063	459	4,604
利差	1,686	492	1,193
費差	448	△ 86	535
除く年金資産の時価変動部分 (注1)	497	△ 110	607
危険差	2,928	53	2,875
キャピタル損益 (B)	1,143	△ 191	1,334
臨時損益 (C) (注2)	△ 2,367	△ 646	△ 1,721
経常利益 (A+B+C)	3,838	△ 378	4,216

(単位：億円)

基礎利益

5,063億円 (前年度比10.0%増加)

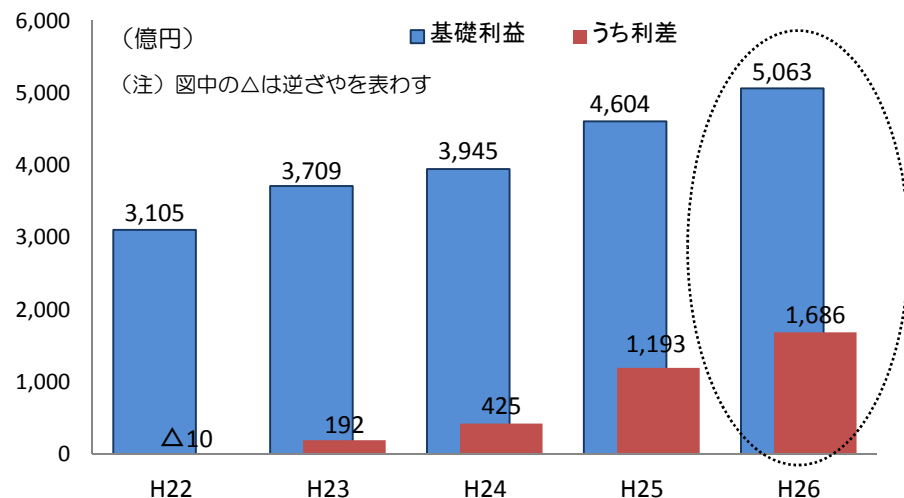
◇ 利息及び配当金等収入が増加したこと等により、
5年連続の増益を達成し、過去最高益

◇ 4年連続で順ざやを達成

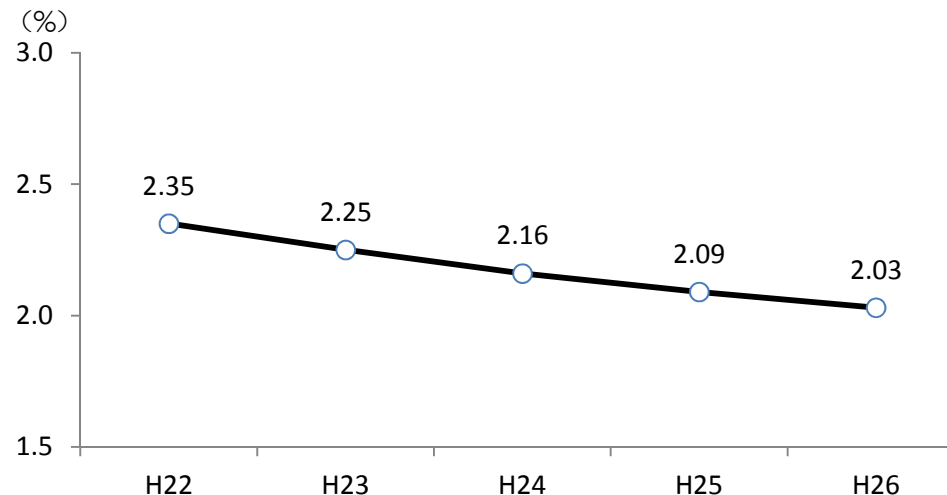
(注1) 退職給付費用における年金資産に係る数理計算上の差異の費用処理額を除いた費差

(注2) 臨時損益には、危険準備金繰入・戻入額および追加責任準備金繰入額等を含む

(図3) 基礎利益、利差の推移



(図4) 平均予定利率の推移



7. ソルベンシー・マージン比率、実質純資産額、含み損益について

○ ソルベンシー・マージン比率

(単位：億円、%)

	平成26年度末		平成25年度末
		前年度末差	
ソルベンシー・マージン比率 ^(注)	1,041.0	95.5 ^{ポイント}	945.5
ソルベンシー・マージン総額 (A)	71,906	16,614	55,292
リスクの合計額 (B)	13,814	2118	11,695

(注) ソルベンシー・マージン比率=(A)/(1/2×(B))×100

ソルベンシー・マージン比率

1, 041. 0%

(前年度末差95. 5ポイント上昇)

◇ 有価証券含み益の増加等により
1, 000%を上回る水準まで上昇

○ 実質純資産額

(単位：億円、%)

	平成26年度末		平成25年度末
		前年度末差	
実質純資産額	88,993	24,612	64,380
一般勘定資産に対する比率	25.0	5.8 ^{ポイント}	19.2

含み損益 (一般勘定資産全体)

5兆6, 182億円

(前年度末差2兆1, 636億円増加)

◇ 株価の上昇、国内外金利の低下、
円安ドル高の進行により、5兆円を
上回る含み益を確保。新会社発足以
来の最高値

○ 一般勘定資産全体の含み損益

(単位：億円)

	平成26年度末		平成25年度末
		前年度末差	
一般勘定資産全体の含み損益	56,182	21,636	34,545
うち時価のある有価証券 ^(注)	52,767	21,062	31,704
うち公社債	16,735	5,679	11,055
うち株式	24,172	9,554	14,617
うち外国証券	11,371	5,680	5,690

(注) 有価証券には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含む

8. 国内株式含み損益ゼロ水準、リスク管理債権、内部留保等、EEVについて

○ 国内株式含み損益ゼロ水準

仮に当社ポートフォリオが日経平均株価およびTOPIXにフル連動するとした場合

	平成26年度末	平成25年度末
日経平均株価ベース	7,800円程度	7,800円程度
TOPIXベース	630ポイント程度	630ポイント程度

(注) なお、株価指数と当社ポートフォリオの過去の連動性を用いて算出した場合、日経平均株価7,900円程度、TOPIX640ポイント程度

○ リスク管理債権額

(単位：億円、%)

	平成26年度末		平成25年度末
		前年度末差	
リスク管理債権額	197	△ 13	210
貸付残高に対する比率	0.39	△0.02 ^{ポイント}	0.41

○ 内部留保等 (注)

(単位：億円)

	平成26年度末		平成25年度末
		前年度末差	
内部留保等	21,970	915	21,054

(注) 内部留保等の内訳：基金・基金償却積立金、基金償却準備金、価格変動積立金、事業基盤強化積立金、危険準備金、価格変動準備金等

○ ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー (EEV)

(単位：億円)

	平成26年度末		平成25年度末
		前年度末差	
EEV	54,905	12,719	42,185

国内株式含み損益ゼロ水準
(日経平均株価ベース)

7, 800円程度

◇ 仮に当社ポートフォリオが日経平均株価にフル連動するとした場合の水準

内部留保等

2兆1, 970億円

(前年度末差915億円増加)

◇ 内部留保の積み増しを実施

EEV

5兆4, 905億円

(前年度末差1兆2, 719億円増加)

◇ 『ベストスタイル』の販売が好調であったことに加え、株価および金利低下に伴う債券価格の上昇により、有価証券等の含み益が増加した結果、EEVは大幅に増加

9. 平成26年度決算(案)に基づく社員配当の状況

○ 個人保険・個人年金保険

- ・長期継続の契約を中心に配当率を引き上げ
- ・対象となる保険種類は以下のとおり
 - ①主に死亡を保障する主契約、特約（終身保険、定期保険特約等）
 - ②主に疾病入院、災害入院を保障する主契約、特約（（新・）入院特約等）

【モデルケース】ライフアカウントL.A.^(注) (単位：円)

経過	契約年齢	保険料 (年換算)	平成27年度		平成26年度 支払額
			支払額	増加額	
6年	40歳	182,256	5,895	3,074	2,821
	50歳	218,112	10,426	5,505	4,921
9年	40歳	203,112	28,813	7,262	21,551
	50歳	250,872	67,877	12,983	54,894

(注) 男性 月掛(口座振替料率) アカウント保険料月1,000円 (新・)生活サポート特約(40歳契約:基本年金年額240万円、50歳契約:基本年金年額120万円)、遺族サポート特約600万円、入院特約(120日型)5,000円

○ 団体年金保険

- ・全商品について配当率を引き上げ

【モデルケース】確定給付企業年金保険 等

	平成27年度		平成26年度 支払配当率
	支払配当率	前年度差	
予定利率+配当率 [うち配当率]	2.37% [1.12%]	0.30 ^{ポイント}	2.07% [0.82%]

○ 団体保険

- ・配当率をすえ置き

社員配当

個人保険・個人年金保険、 団体年金保険で配当率を引き上げ

【個人保険・個人年金保険】

- ◇ 5年連続の増益で、過去最高益となったこと等をふまえ、長期に継続いただいているご契約を中心に配当率を引き上げ。配当率の引き上げは2年連続

【団体年金保険】

- ◇ 団体年金資産区分の運用実績等をふまえ配当率を引き上げ

10. 平成27年度業績見通し

	平成27年度	平成26年度
保険料等収入	3兆 900億円程度	3兆4,084億円
基礎利益	4,500億円程度	5,063億円

	平成27年度末	平成26年度末
企業価値（EEV） <small>（注）</small>	4兆9,300億円程度	4兆6,755億円

（注）企業価値（EEV）は、中期経営計画の経営目標指標であり、経済環境の前提を平成25年度末で固定していることから、8ページに記載のEEVとは数値が相違

業績見通し

- ◇ 保険料等収入は、引き続き金利リスクを抑制するため、銀行窓販チャネルを中心に販売量を減らす見通し
- ◇ 基礎利益は、低金利による影響や、平成17年度に発生した退職給付会計上の多額の差益償却が終了すること等から減益の見通し
- ◇ 成長性・収益性を総合的に表す経営目標に掲げる「企業価値（EEV）」は、第三分野商品等の保障性商品の業績伸展等により引き続き増加の見通し

(ご参考)損益計算書・貸借対照表

○損益計算書（要約）

（単位：億円）

○貸借対照表（要約）

（単位：億円）

	平成26年度		平成25年度
		前年度比	
経常収益（A）	45,586	△ 3.9%	47,412
うち保険料等収入	34,084	△ 5.7%	36,162
うち資産運用収益	10,291	5.1%	9,787
経常費用（B）	41,747	△ 3.4%	43,195
うち保険金等支払金	25,963	14.1%	22,761
うち責任準備金等繰入額	9,542	△ 31.9%	14,021
うち資産運用費用	958	△ 12.8%	1,099
うち事業費	3,484	△ 1.0%	3,520
経常利益（A－B）	3,838	△ 9.0%	4,216
うち基礎利益	5,063	10.0%	4,604
特別損益	△ 221	△ 82.8%	△ 1,292
法人税等合計	964	81.8%	530
当期純剰余	2,652	10.8%	2,393

	平成26年度末		平成25年度末
		前年度末差	
資産の部合計	364,690	21,512	343,177
一般勘定	356,133	21,087	335,045
うち現預金・コールローン	5,073	1,142	3,930
うち有価証券	284,334	20,041	264,293
うち公社債	165,664	△ 3,388	169,053
うち株式	42,134	8,611	33,523
うち外国証券	73,995	14,172	59,823
うち貸付金	50,522	△ 845	51,367
特別勘定	8,556	424	8,131
負債の部合計	322,886	9,277	313,609
うち保険契約準備金	305,265	9,319	295,946
うち責任準備金	301,646	9,538	292,108
うち価格変動準備金	4,924	116	4,808
純資産の部合計	41,803	12,235	29,567
うち基金・基金償却積立金	7,300	600	6,700
うち剰余金	4,816	402	4,413
うちその他有価証券評価差額金	28,338	10,958	17,380

トピックス①

MY長寿ご契約点検制度について

- ◇ 一生涯の保障をより確かなものにするために、「MY長寿ご契約点検制度」を創設。昨年12月に公表し、4月より制度を開始
- ・長寿の節目である、77歳（喜寿）、90歳（卒寿）、99歳（白寿）、108歳（茶寿）、111歳（皇寿）の祝賀を迎えられたご契約者さまに「保険金ご請求の有無の確認」と「ご連絡先の確認」を実施



長寿の国のアフターフォロー。

「メディカルスタイル F」について

- ◇ 進化する医療保険「メディカルスタイル F」を6月2日より発売

新登場!

進化する医療保険で、
変わりゆく時代に「変わらない安心」を

5年ごと配当付組立総合保障保険

進化する医療保険

メディカルスタイル[®]

詳しくは、当社MYライフプランアドバイザーにおたずねください。

2つの[®]Fが、変わりゆく時代に「変わらない安心」を実現します。

フレックス
Flex = 自在性

お客様の
ニーズにあわせて、
保障を組み合わせる
ことができます。

フューチャー
Future = 将来

医療環境やライフサイクルの
変化にあわせて、
保障を見直す
ことができます。

本資料は保険募集を目的としたものではありません。保険商品の詳細につきましては、商品発売後に「商品パンフレット」等をご覧ください。

トピックス②

明治安田生命Jリーグについて

- ◇ Jリーグとタイトルパートナー契約を締結
 - ・ 「地域に根ざしたスポーツクラブを核として、豊かなスポーツ文化を醸成する」という考えに共感し、タイトルパートナー契約を締結
 - ・ 「全員がサポーター」となってJリーグを応援することで地域社会の活性化や子どもの健全育成に貢献。3月のシーズン開幕以降、当社従業員が地域のみなさまとともにスタジアムに足を運び、これまで4万人以上が各試合会場で地元のJクラブ等を応援
- ◇ 「明治安田生命Jリーグ」所属の全クラブとスポンサー契約を締結
 - ・ お客さまやJリーグのファン・サポーターとの絆をいっそう深めるために全国の3本部・73支社において「明治安田生命Jリーグ」に所属の全52クラブ等とのスポンサー契約を締結
- ◇ 小学生向けサッカー教室を開催
 - ・ 昨年度は、全国各地で小学生向けサッカー教室を83回開催し、約12,000人のお子さまや保護者の方々が参加。今年度もJリーグおよび地元クラブとともにサッカー教室をはじめとする各種イベントを全国で展開



左から：メットライフ生命 山崎 隆平、Jリーグ 初野 浩二、明治安田生命 高橋 伸一郎、明治安田生命 高橋 伸一郎

©J.LEAGUE PHOTOS



「小学生向けサッカー教室」